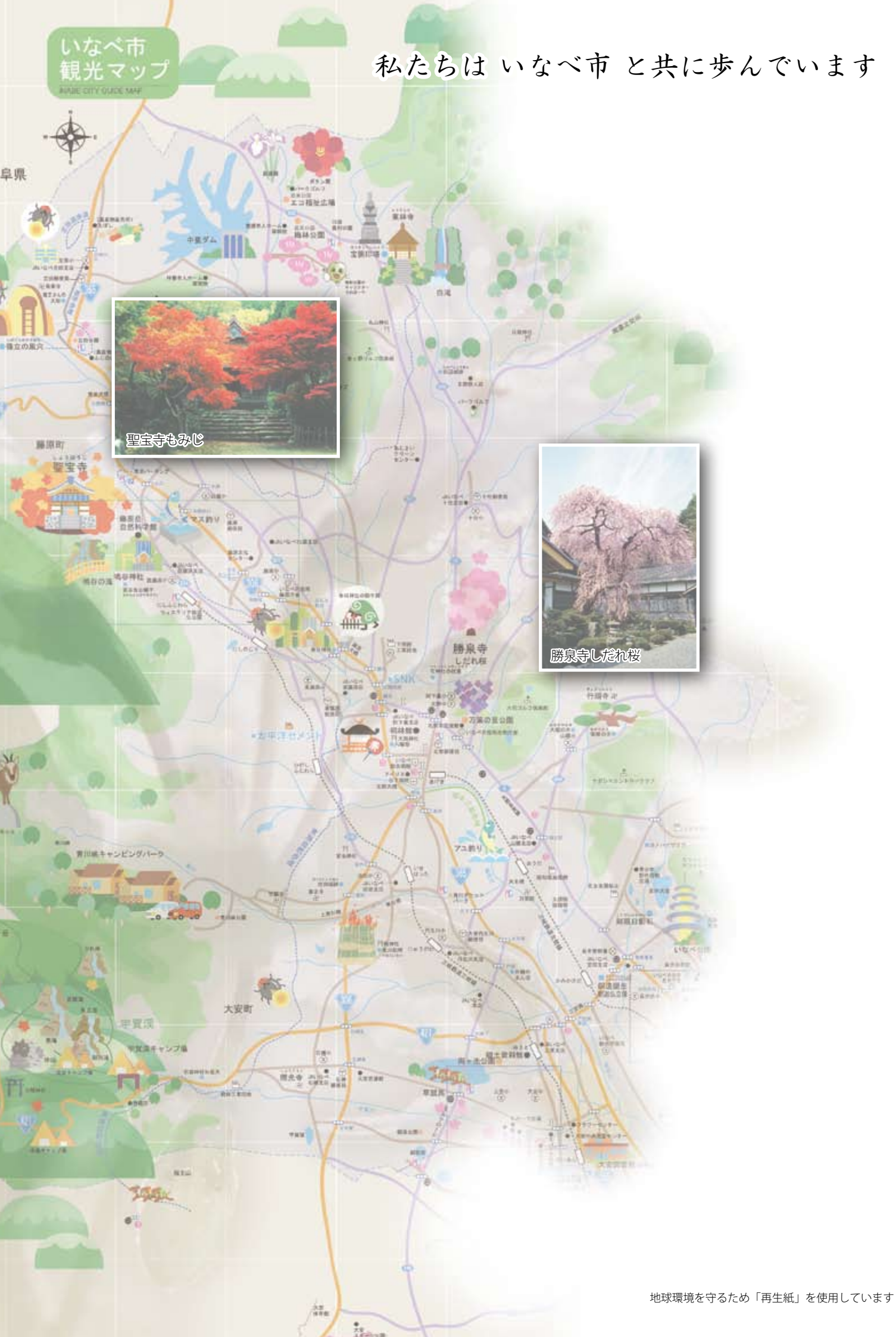




私たちは いなべ市 と共に歩んでいます

=安全・環境経営レポート=



お客様へ **安心・安全・確実**をお届けします  
地球環境へ 資源化を通じて**優しさ**をお届けします

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

平成 19 年 8 月

# わたしの環境経営理念と会社プロフィールです

わたしたちが扱う廃棄物は大切な資源です。従って、収集運搬から資源化までの全工程において、一人一人が大切な資源として取扱っています。

また、経営面においても「環境と企業経営は、対立する軸ではなく、同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する」との考えで企業活動を展開します。

こうした理念のもと、お客様に対し、また、地球環境に対し右記の約束を行い実行します。

## わたしの約束



お客様へ  
**安心・安全・確実**をお届けします

地球環境へ  
資源化を通じて**優しさ**をお届けします

代表取締役社長 生川好彦

## 事業概要

- 企業活動から発生する廃油・廃酸・廃アルカリ・タンクスラッジ・廃溶剤等をブレンドし、セメント工場での補助燃料として再生処理して供給（自社開発処理プラント）
- 企業活動等から発生する汚泥・ばいじん等をセメント原燃料として供給

### 産業廃棄物の中間処理（営業品目）

産業廃棄物 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・ばいじん  
特別管理産業廃棄物 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ

### 産業廃棄物の収集運搬（三重県内営業品目）

産業廃棄物 燃え殻・廃酸・廃アルカリ・木くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・鉋さい・がれき類・汚泥・廃プラスチック類・廃油・ばいじん  
特別管理産業廃棄物 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・特定有害廃油・特定有害汚泥  
※三重県のほか、相模原市・福井県・岐阜県・岐阜市・愛知県・名古屋市・豊田市・岡崎市・滋賀県・大阪府・大阪市・堺市・高槻市・岡山市・福山市・高知市の6府県10市について許可取得（営業品目は、各自治体で異なります。）

### 船舶廃油処理事業（四日市港の特定の岸壁利用）

いわゆる船舶洗浄水の処理事業です。中部マリン・サービス(株)及び日本トランスシティ(株)との連携事業であり、四日市港で唯一、船舶を特定せず廃油処理事業を行う事業者です。（これまでは、わざわざ関東や関西地区に運搬し陸揚げ処理せざるを得ませんでした。）

## エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

所在地 統括本部 〒510-0814 三重県四日市市清水町4番45号  
TEL059-332-3711 FAX059-332-2132  
北勢工場 〒511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地  
TEL0594-72-7850 FAX0594-72-7851

設立 平成12年3月1日  
新日本技研(株)から環境事業部門を分社（通算事業実績32年超）

事業規模 資本金 3,000万円  
社員 52人（平成19年3月31日決算日現在）  
売上高 1,169百万円（同上）

| 区分 \ 決算年度<br>(3月末) | 13年度 | 14年度 | 15年度  | 16年度 | 17年度  | 18年度  |
|--------------------|------|------|-------|------|-------|-------|
| 社員数(人)             | 30   | 32   | 39    | 42   | 43    | 52    |
| 売上高(百万円)           | 765  | 904  | 1,042 | 964  | 1,027 | 1,169 |

## 許可・資格等

- 産業廃棄物処分業許可（平成17年5月23日～平成22年5月22日有効・三重県知事）
- 特別管理産業廃棄物処分業許可（同上）
- 産業廃棄物収集運搬業許可（平成17年6月15日～平成22年6月14日有効・三重県知事）
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可（同上）
- 一般貨物自動車運送事業・第一種利用運送事業許可（中部運輸局長）
- 船舶廃油処理事業許可（中部運輸局長）
- 北勢工場・三重県産業廃棄物税条例の認定「再生施設」
- 毒物劇物一般販売業登録業者（平成19年7月1日～平成25年6月30日有効・三重県四日市保健所長）

- ISO14001 認証取得（2004年11月1日北勢工場取得・2005年11月10日全社拡大認証取得）
- 平成17年3月25日（財）産業廃棄物処理事業振興財団・産業廃棄物処理業経営塾優秀賞（生川好彦受賞）
- 平成17年6月14日（社）全国産業廃棄物連合会地方功労者表彰（生川好彦受賞）
- 三重県環境森林部「企業環境ネットワーク・みえ」会員
- みえ・グリーン購入倶楽部会員 グリーン購入ネットワーク会員



継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です

「わたしの約束」を果たすために、安定・継続的な資源化の経営理念で取組みます。



産業廃棄物の排出企業、廃棄物処理業者、資源化製品利用企業の三者間の営業取引において、三者のいずれかが

一時の利害や自己の利益のみ追求する一人勝ちの経営では、安定・継続的な資源化への取組は確立されません。

資源の循環は、経営の循環なくして成立しないと考えます。

連携企業が協働して、安定・継続できる経営を理念として取組んでいます。

創業以来、太平洋セメント(株)藤原工場様とは、こうした理念のもと協働・連携させていただき、平成 18 年度においてもお取引先 821 社の北勢工場への搬入廃棄物について再資源化し有益な取組ができましたことに感謝します。今後とも安定・継続的な連携をお願いします。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)

代表取締役社長 生 川 好 彦

循環型社会構築へ



持続可能な地球の未来を拓く先導役として、セメント産業が循環型社会構築への貢献を進めます。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)グループ等とも協働・連携して地域社会への貢献とも調和した事業活動を展開しています。

太平洋セメント(株)藤原工場

工場長 村 岡 富美男

船舶廃油処理事業

中部マリン・サービス(株)

日本トランスシティ(株)

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)

三社が連携し、四日市港に入港する船舶の船舶洗浄水処理事業を行うことについて中部運輸局長の許可を得、体制が整いました。これまで、わざわざ関東や関西地区に運搬し処理せざるを得ませんでしたが、入港船舶の利便と海洋の環境保全に取り組めます。

北勢工場 取扱廃棄物 処理の流れ

太平洋セメント(株)藤原工場

97% 超の再資源化  
(46,494 トン)

その他

3% 未満の適正処理  
(1,419 トン)

未来を保守点検



廃棄物は、安全・安心・確実な処理とともに、環境保全や資源保護に貢献する処理が大切です。

この理念を更に発展させるべく、新日本技研(株)から環境事業部門を分社し、エス・エヌ・ケー・テクノ(株)を設立しました。

一層の連携を図り、目的達成のための企業活動を展開します。

新日本技研(株)

代表取締役社長 伊 藤 暁

ウィズ・ネット(株)

新日本技研(株)

関連会社

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場

社会に貢献できる創意工夫の実行提案が使命です。

- 産業廃棄物の処理、有効利用等の企画、調査等
- 産業廃棄物処理施設の保守、維持管理等の企画、調査等
- 人材派遣業

既存業種の隙間を埋める技術と創意が必要です。隙間には、危険やお客様の不満が存在します。

石油化学コンビナート内のメンテナンス、定期修理等で培った安全管理や処理の技術・経験で社会貢献します。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場への廃油等廃棄物搬入

お取引先 821 社（平成 18 年度受託処理実績分）前年度 805 社

化学工業、石油製品製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、繊維工業、鉱業……等幅広い企業からお取引いただいています。

廃油等の再資源化処理プラント・北勢工場です

■北勢工場は

●廃油等の再資源化処理施設です

産業廃棄物の廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）する環境負荷のほとんど無い再資源化施設です。

- 産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処分業許可処理能力
 

|      |             |
|------|-------------|
| 混練施設 | 220.5 t / 日 |
| 中和施設 | 48.0 t / 日  |
- 無排水、かつ、熱処理工程の無い無煙の処理システム
- 消費エネルギーは、年間使用動力 18 年度約 179,000 k w h
- 再資源化原料は、搬入廃棄物のほか搬入廃棄物の 0.3 ～ 0.4%程度 の中和剤のみ

●自社開発の廃棄物処理プラントです

平成 7 年 12 月建設（当時は新日本技研(株)・平成 12 年 3 月新日本技研(株)から環境事業部門を分社しエス・エヌ・ケー・テクノ(株)を設立、同年 6 月から同社が営業開始  
 平成 15 年 5 月北勢工場を拡充整備（第二工場）

●ISO14001 認証取得工場です

●三重県産業廃棄物税条例の「再生施設」です

●船舶廃油処理事業許可施設です

北勢工場全景



○北勢工場取扱廃棄物の 9 7 %を再資源化しました

平成 1 8 年度にお取引先 821 社から処理委託され、北勢工場へ搬入された廃油、廃酸、廃アルカリ等 47,913 トンにつきましては、北勢工場でセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）して、46,494 トンを太平洋セメント(株)藤原工場へ供給しました。

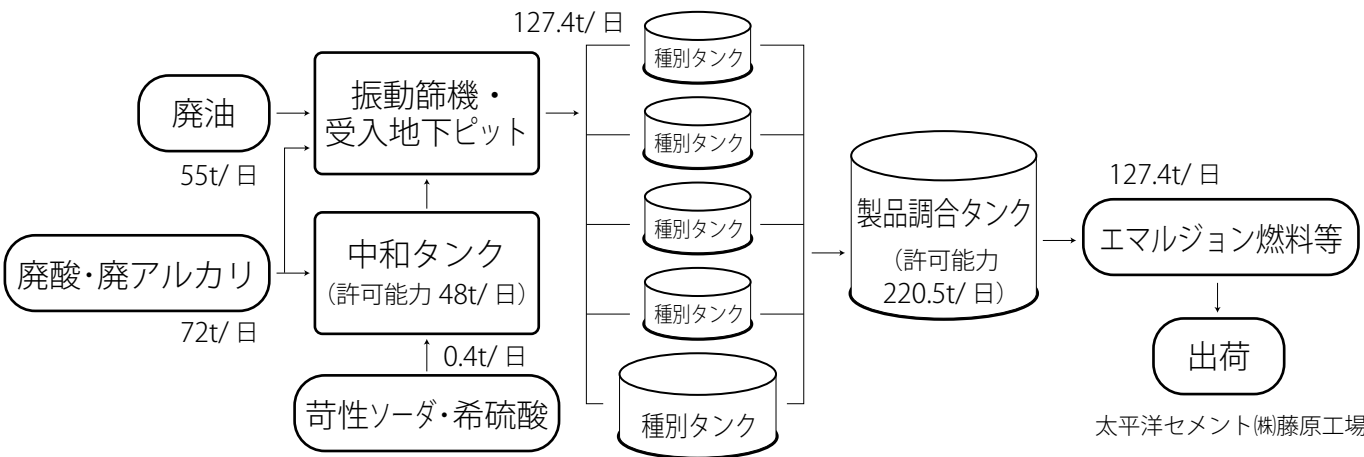
廃油等の再生処理による太平洋セメント(株)藤原工場への補助燃料等搬入量

| 年度(平成) | 補助燃料等搬入量(利用実績)<br>(トン) |
|--------|------------------------|
| 18 年度  | 46,494                 |
| 17 年度  | 45,874                 |
| 16 年度  | 49,677                 |
| 15 年度  | 42,346                 |
| 14 年度  | 33,973                 |

平成 1 8 年度廃油等の再生処理による再資源化量は、46,494 トンで、搬入廃棄物の性状等からセメント焼成用補助燃料としての利用実績は 34,895 トン、残る中和処理水 11,599 トンは、セメント製造施設を運転管理する工程で、工業用水を用いて温度調整する必要があるため、この場合の工業用水の一部代替として利用

※補助燃料は、重量ベースで石炭とほぼ同程度のエネルギー代替

18 年度廃油等の再生処理フロー・実績（※「〇〇 t / 日」は 18 年度処理量を 365 日で除した数値）



廃油等の補助燃料への再生処理（中間処理）工程（詳細は次ページ参照）

- お客様から集荷した廃油等から異物を除去し、化学的、物理的特性に応じて種別タンクに仕分けして貯蔵
- 製品企画に適合する調合割合で混合・攪拌するなどして製品化
- セメント焼成工程のロータリーキルンの補助燃料として燃焼処理

高温燃焼（1,450℃超）により、ダイオキシン等の有害物質の生成は完全抑制



○ 廃油等の補助燃料への再生処理 ( 中間処理 ) 工程



ローリー荷下作業  
入荷した産廃は地下ピットへ投入



ドラム缶吸引処理作業  
バキューム車で吸引後地下ピットへ投入



タンクヤード

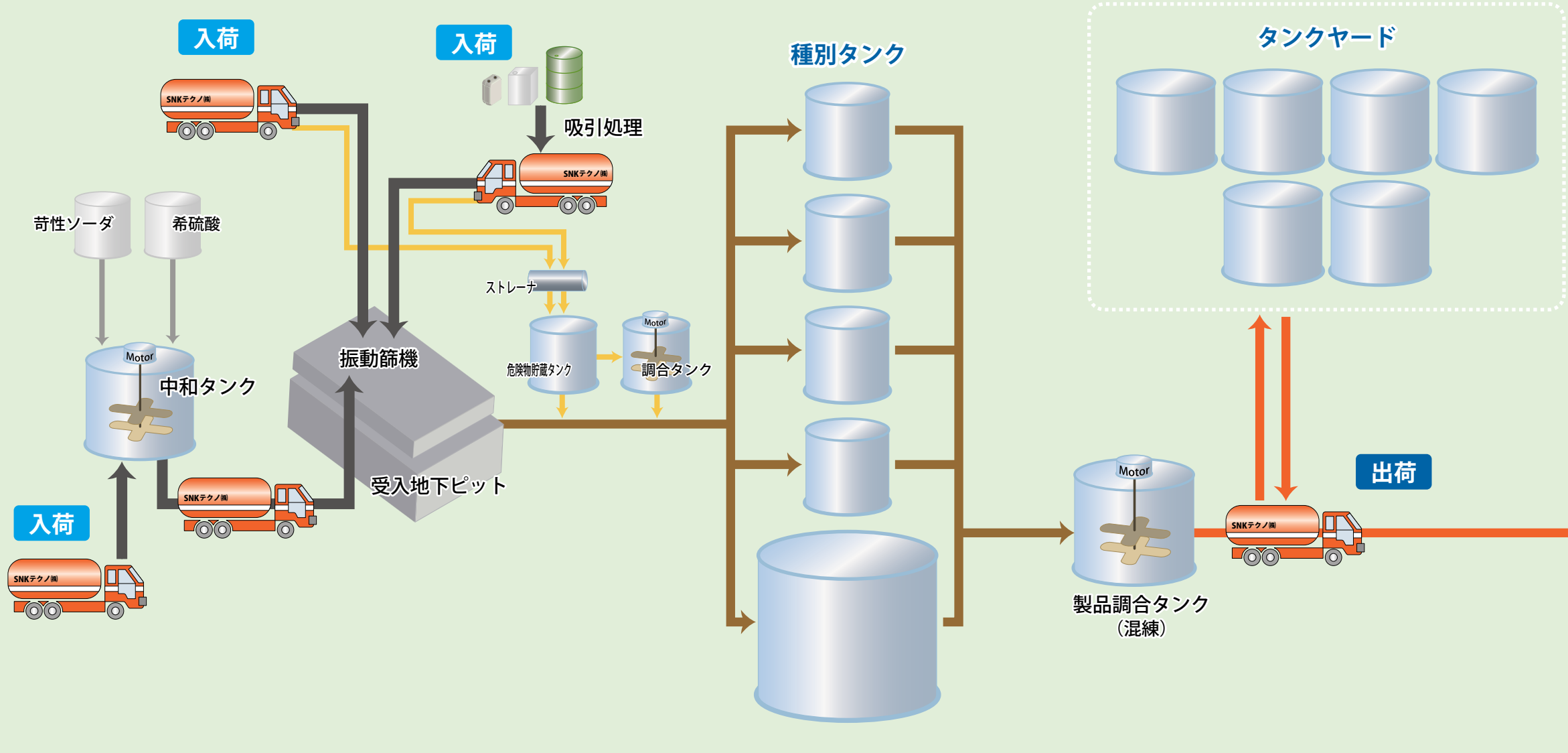


太平洋セメント(株)藤原工場 5号キルンタワー



5号キルン

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場



中和タンク 入荷した廃液を 中和タンクへ投入し  
苛性ソーダまたは希硫酸により中和処理



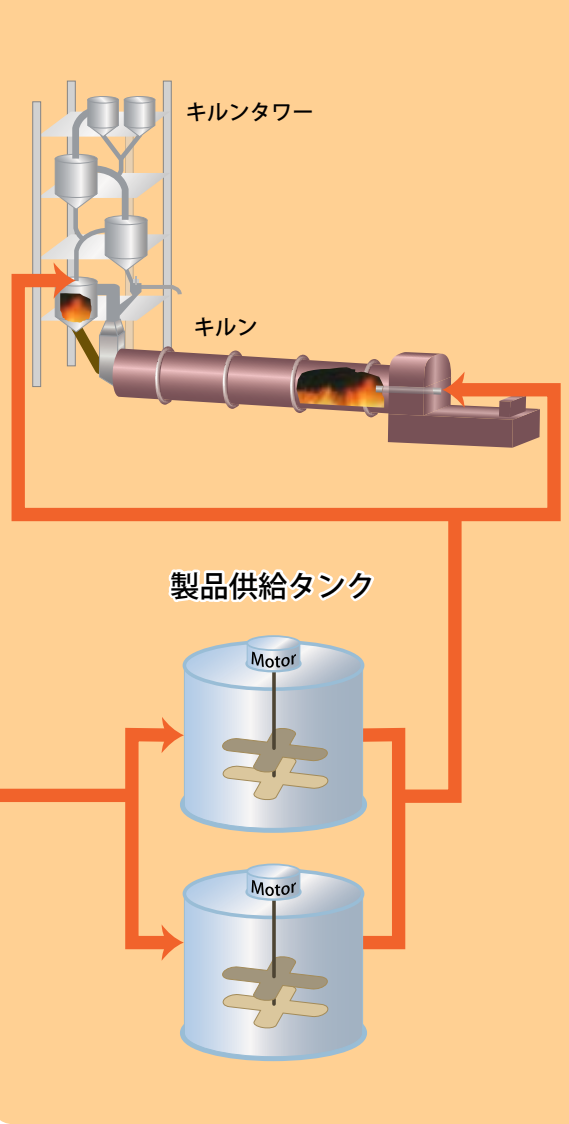
種別タンク・製品調合タンク  
入荷した産廃を規定カロリーにブレンド



製品出荷作業  
ブレンドされた製品をローリー車へ積込・出荷



太平洋セメント(株)藤原工場



太平洋セメント(株)藤原工場内製品供給タンク  
出荷製品は製品供給タンクへ一時貯蔵





○ 廃油等の再資源化に取り組む北勢工場の品質管理体制

産業廃棄物の排出事業者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、委託した産業廃棄物の最終処分が終了するまで、廃棄物の処理が適正に行われるために必要な措置を講じるよう努めなければならないと規定されています。わたし達は、この「排出事業者責任」と「産業廃棄物処理業者責任」をともに果たせる体制が大切と考え取り組んでいます。

北勢工場試験分析室の取組

- 廃油等のセメント焼成用補助燃料等への利用推進のための品質管理  
セメントの原燃料は全てセメントに取り込まれ、二次廃棄物はありません。セメントの品質確保を絶対の要件として、責任を持った品質管理を行います。
- 適正処理方法の選択  
当社との契約前の事前分析、原料受入分析等を行うほか、お客様の廃棄物の適正処理方法等の相談にも、できる限り応じられるように活用しています。
- 廃棄物データシート（WDS）の活用  
お客様には「廃棄物データシート」の提出をお願いしています。双方の協力が、廃棄物の再資源化や適正処理を進めます。
- 安全・効率的な再資源化処理等の研究  
企業の生産活動の変化に伴い、廃棄物の性状や量も変化することから、お客様のニーズに対応出来るように努めています。



| 測定実施項目と内容 |                                                                 | 測定実施時の環境配慮事項等                      |
|-----------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 塩素量測定     | 塩素含有量数ppmまで測定可能                                                 | 排気ガスは、独自の脱臭スクラバーで脱臭                |
| 発熱量測定     | 10cal/gオーダーで測定可能                                                | 有害燃焼ガスはスクラバーで吸着処理                  |
| 蛍光X線測定    | 定量測定（塩素・硫黄・リン・臭素・ヨウ素数 ppm まで）<br>定性分析（ナトリウム〜ウラン数%オーダーでの含有量分析可能） | 大まかな廃液の構成物質の把握が可能になり<br>一層の適正処理に貢献 |
| pH 測定     | 試験紙 0.2、pH メーター 0.1 測定可                                         | 環境負荷の小さい試験紙を優先使用                   |
| 中和量測定     | 廃棄物 pH の中性に必要な中和剤量測定                                            | 廃液（廃酸・廃アルカリ）同士での中和の可能性検討中          |
| 引火点測定     | タグ密閉式自動測定器で 0.5℃オーダー測定可                                         | 省エネタイプの冷却水循環装置を使用                  |
| フッ素イオン測定  | 数 ppm オーダーで測定可能                                                 | 有機フッ素測定による資源化の可能性を検討中              |
| クロム（VI）測定 | 六価クロム数 ppm オーダーで測定可能                                            | 測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用                |
| 過酸化物質測定   | 過酸化物質の酸素放出量数 ppm オーダーで測定可能                                      | 測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用                |
| 混触試験      | 廃棄物混合による反応性の有無試験                                                | 反応の無い廃液混合を模索し廃棄物が出ない工夫             |
| 溶解試験      | 固形廃棄物の溶解処理の可否試験                                                 | 溶解量を増やし廃棄物発生の削減検討                  |
| 汚泥の試験     | 水分量（105℃2時間乾燥）、熱灼減量（600℃3時間燃焼）                                  | 有害燃焼ガスはスクラバーで吸着処理                  |

※その他の環境配慮  
・測定後のサンプル・試薬の約 90%はセメント原料に再利用  
・分析室発生廃液は分析器具の洗浄水のみ

北勢工場の「安全」・「環境」対策と環境クレームの状況です

北勢工場は、廃棄物の再資源化処理プラントであり、この企業活動を通じて環境や地域社会に貢献できればと願っています。環境クレームについては、発生しない事前の取組に努力していますが、平成 17 年度には、悪臭に対する環境クレームが 2 件ありました。  
臭気対策は、北勢工場でも最も留意すべき事項の一つですので ISO14001 の環境目標（16 ～ 18 年度）に、下記の 4 項目の悪臭対策を定め、平成 18 年度中の脱臭設備の整備に取り組み、計画通り完工しました。  
平成 18 年度においては、環境クレームはありませんでした。  
環境クレームに対しては情報を開示し、ISO14001 のツールを活用して、問題解決に向け全社的に展開します。



「安全」・「環境」を北勢工場全社員の行動規範として取組み、工場の「安全」・「環境」対策を一層推進します  
工場長 藤村 等

○ 北勢工場の「安全」・「環境」対策

北勢工場においては、「臭気対策」・「騒音対策」・「飛散、流出、浸透防止対策」・「防火対策」・「緑化対策」等に取り組んでいます。

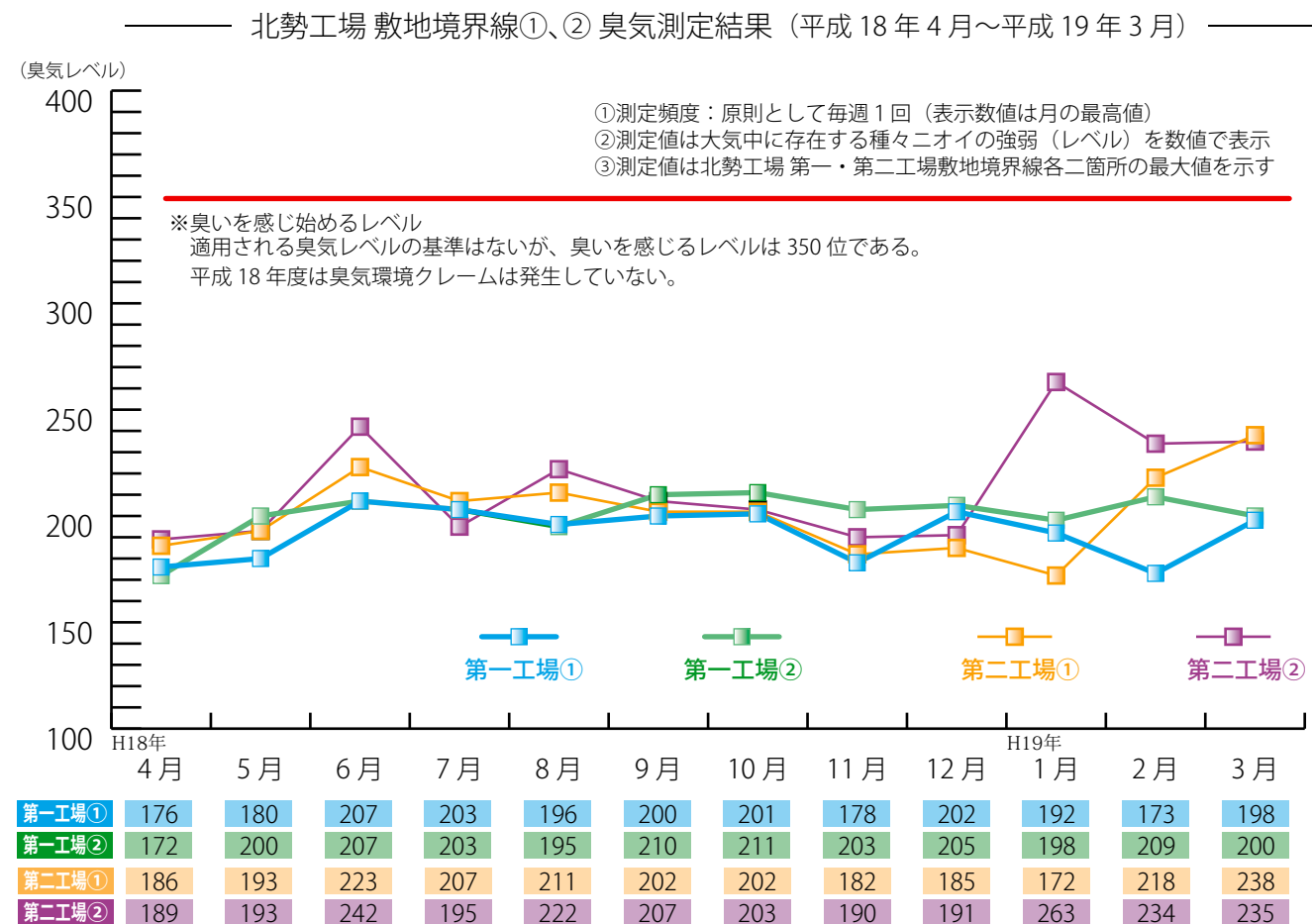
臭気対策

- 臭気の除去は、スクラバー方式（湿式）3 連 2 系列及び消臭剤散布設備の二重対策を取り入れています。



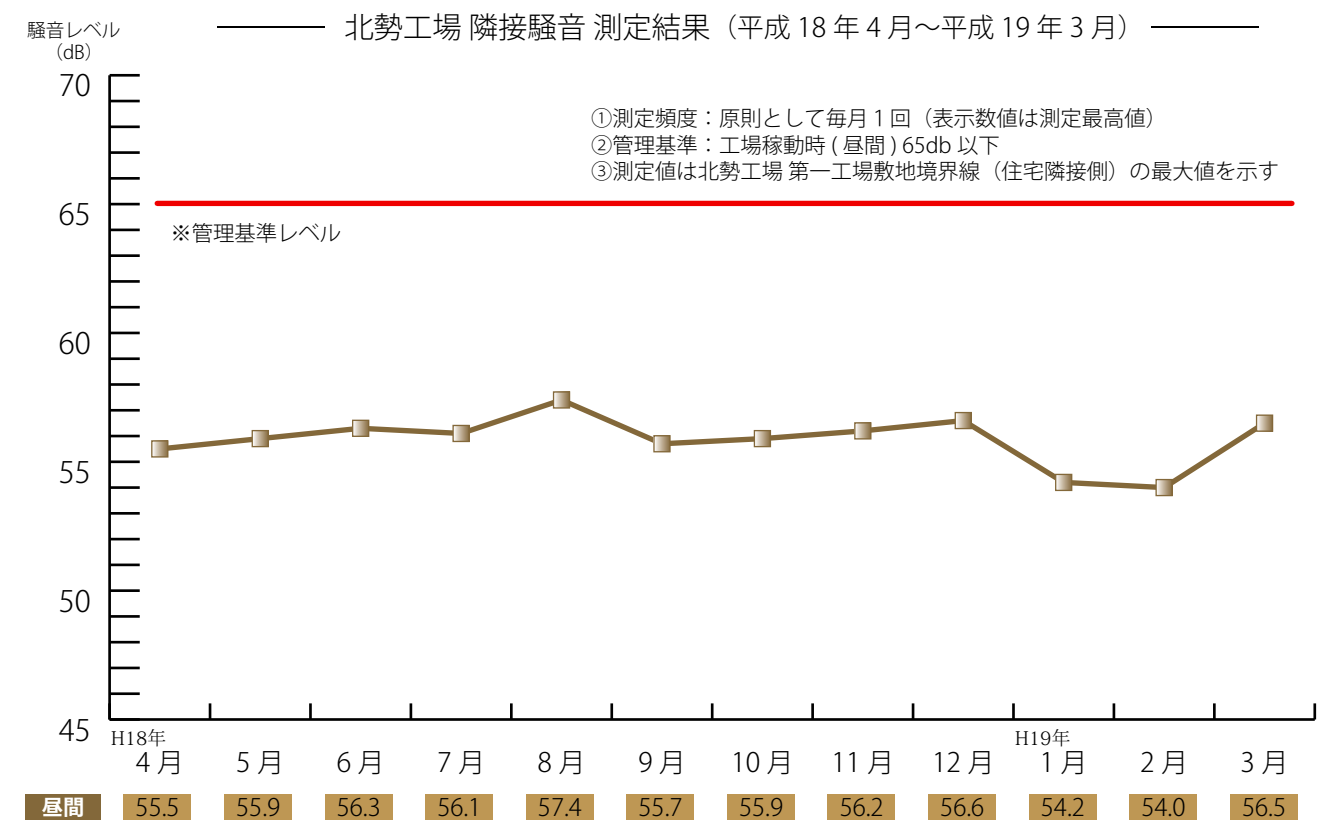
ISO14001 での悪臭対策環境目標

| 改善項目         | 環境目標       |            |            |
|--------------|------------|------------|------------|
|              | 平成 16 年度目標 | 平成 17 年度目標 | 平成 18 年度目標 |
| 分析室内悪臭       | データ収集      | 脱臭方法検討     | 脱臭設備完工     |
| 振動篩及び脱臭設備悪臭  | データ収集      | 脱臭方法変更検討   | 脱臭設備改造     |
| 第二工場タンク拔出時悪臭 | データ収集      | データ収集      | 脱臭設備完工     |
| タンク清掃時の悪臭    | データ収集      | 脱臭方法検討     | 脱臭設備完工     |



## 騒音対策

- 構造物での遮蔽壁（吸音板）の設置、アイドリングストップ、夜間作業は原則行わない等の対策を行っています。



## 飛散・流出・浸透防止

- 防油堤、油水分離層の設置、コンクリート又はアスファルト舗装による浸透防止対策等を行っています。

## 防火対策

- 危険物タンクには、泡消火設備、消火ポンプ設備を設置して、不測の事態に備えています。なお、火を使う工程はありません。

## 緑化対策

- 工場周辺の緑化を逐次進めています。

平成 17 年度に植樹した、分析室前のヤマボウシの木にヒヨドリが巣をつくり 5 羽の雛が誕生しました。しかし、不幸にも夜半の突風により無事に巣立つこととなりませんでした。小鳥たちにもいい環境づくりに努力したいと思います。



## その他の措置

- 廃棄物の保管場所は、「小さいスペース・ゆとりある保管」の考えで運営しています。「滞留させずにその日に処理する」ことを原則に運営することが、不測の事態にも備えられ、安全・環境保全に第一と考えるからです。
- 中間処理済みの一斗缶、ドラム缶等はリサイクルするシステムがあります。

## ○北勢工場への環境クレーム

平成 18 年度は、環境クレームはありませんでした。

平成 17 年度は、下記の通り悪臭に関する環境クレーム 2 件がありました。

| 発生年月日          | クレームの相手方 | 発生の状況                                      | 原因                           | 対応措置                          |
|----------------|----------|--------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 平成17年<br>6月28日 | 通行人      | 強臭の廃油をローリー車から地下ビットへ受け入れたとき、その臭いが工場外へ一時的に流出 | 通常受け入れている廃油より悪臭が強かった         | 直ちに当該廃油を処理し、以降、当該廃油の受入を中止している |
| 平成17年<br>7月25日 | 近隣の企業    | タンクへ貯蔵していた廃液中の悪臭ガスが気温の上昇とともにタンク外に流出        | 温度上昇に伴うこうした事例がなく、深く考慮していなかった | 直ちに当該廃油を処理し、以降、当該廃油の受入を中止している |



廃棄物の再資源化を進める廃棄物収集運搬事業です

○わたしたちの廃棄物収集運搬理念です

わたし達が収集運搬する廃棄物は、ほとんど再資源化されます。  
従って、わたし達は、大切な資源を収集運搬していると考え行動します。  
赤い車両に安全・適正な収集運搬の決意を込めて、一人一人が大切な資源として取扱っていきます。



完全密閉式ダンプ車                      平ボディー車                      4tバキューム車（ハイブリッド車）

安全・適切な収集運搬を行うため6種類・28台の車両を保有しています。  
・圧送車    ・バキューム車    ・フックロール車    ・ローリー車    ・ダンプ車    ・平ボディー車  
※平成18年度    ハイブリッド車（4tタンク車）1台購入

○再資源化廃棄物の収集運搬へ取組を強化します

汚泥等については、その特性により施設設備の整備状況や処理コストなどから容易に再資源化の進まないものがたくさんあります。こうした汚泥等の再資源化に向けて太平洋セメント(株)藤原工場様や関連会社のウィズ・ネット(株)と連携・協働して下記の平成18年度実績を基点にして、①再資源化廃棄物の収集運搬量の増量 ②再資源化廃棄物の収集運搬率の向上に取組む計画です。

平成18年度廃棄物収集運搬実績 (単位：t)

| 廃棄物区分<br>処分内容                 | 北勢工場への<br>搬入産廃<br>(廃油等) | 他社中間処理施設<br>への収集運搬産廃<br>(汚泥等) | 他社中間処理施設<br>への収集運搬一般<br>廃棄物 | 計      |
|-------------------------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------------|--------|
| セメント原燃料利用 <sup>(A)</sup>      | 27,549                  | 12,908                        | 5,891                       | 46,348 |
| 焼却処分等                         | 852                     | 5,549                         | —                           | 6,401  |
| 計 <sup>(B)</sup>              | 28,401                  | 18,457                        | 5,891                       | 52,749 |
| 直接の再資源化収集運搬率 <sup>(A÷B)</sup> | 97.0%                   | 69.9%                         | 100.0%                      | 87.9%  |

※再資源化利用廃棄物の収集運搬目標  
平成19年度から23年度の5ヵ年において、  
年平均    ・再資源化廃棄物の収集運搬量を6万トン以上に増量  
              ・再資源化収集運搬率を90%以上に向上

平成19年度から平成23年度の5ヵ年間、三重県下の流域下水道で発生する汚泥を全量セメント原料として再資源化する入札に、太平洋セメントと当社を含む収集運搬事業者2社の3社が共同参加して落札、現在契約に基づいて事業実施、当社においては、生活環境に及ぼす影響に最大限留意して、汚泥の運搬専用車輛（完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備）により収集運搬しています。

○安全・適正な収集運搬体制づくり

●安全計画  
4月に始まる事業年度ごとの安全衛生管理計画を2月に策定し、事業開始日までに安全に対する取組について、全乗務員への周知徹底を図る。

●安全衛生会議の開催  
原則として毎月一回は、廃棄物の収集運搬を担当する営業部門の担当者と運輸部門乗務員が安全・安心・適正な収集運搬を行うため、その時々課題について協議、確認し行動の徹底を図る。  
(事例)    ・事故回避のための運搬車荷降し毎のタンク内洗浄について  
              ・収集運搬車両の構造説明と安全取扱いについて  
              ・ISO14001目標（暖気運転の削減等）の取組について  
              ・指差し呼称について

●安全研修大会  
毎年一回は、乗務員全員と運行管理者との意見交換や外部講師による講演等の機会を持って、安全意識の高揚を図る。  
開催日    平成18年11月25日（土）  
参加者    社長、担当部長、工場長、運行管理者、乗務員等  
内 容      ・ヒヤリハット事例を題材とする意見交換や対処方法の検討  
              ・ビデオ上映「交通事故ゼロを目指して」、事故及び緊急事態マニュアルの徹底、冬季の安全に関する準備、その他意見交換等



安全衛生会議



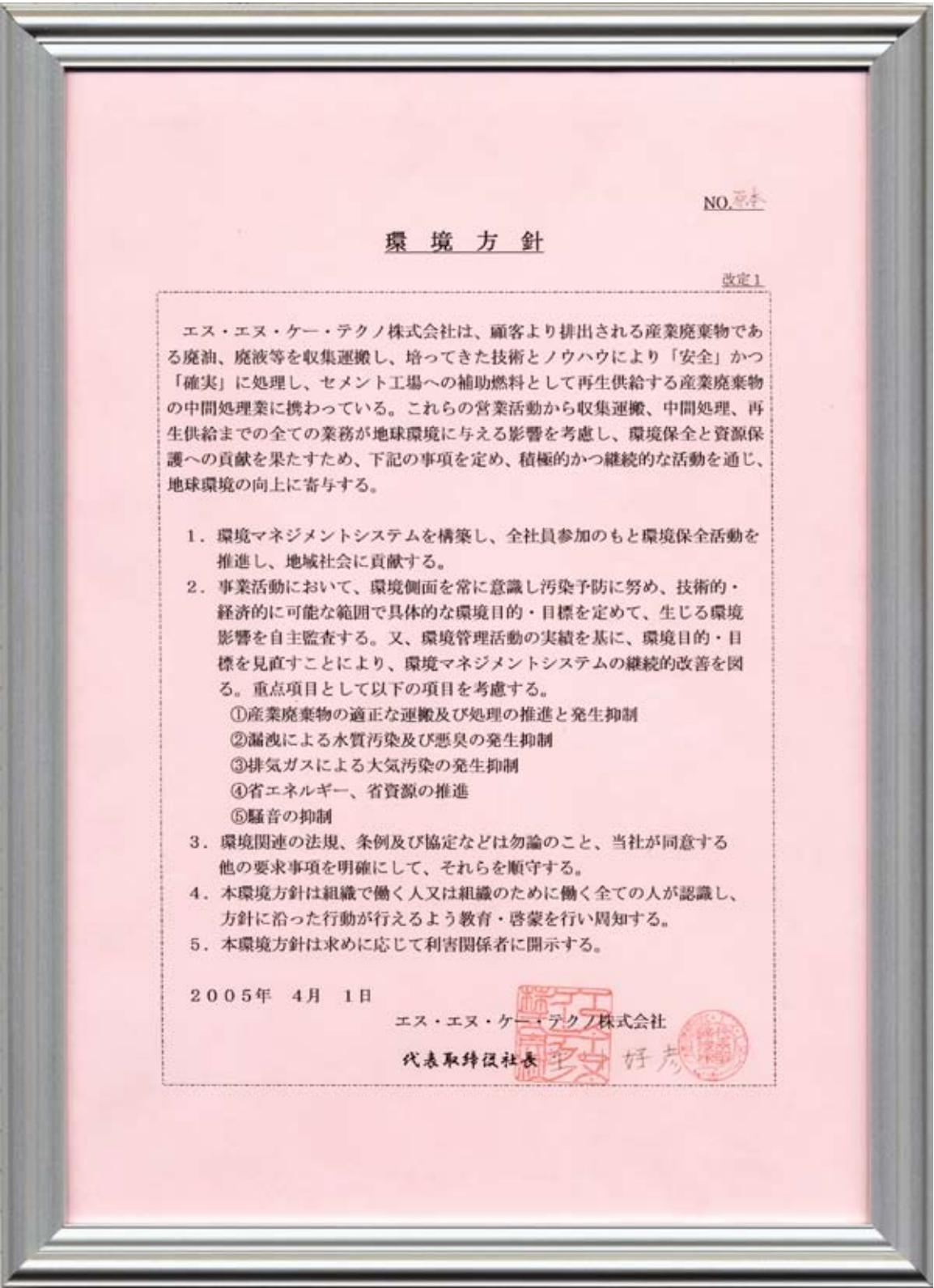
指差し呼称



「安全」・「環境」が組織・全社員の行動規範です

○ ISO14001 認証取得しました

2004 年 11 月 1 日 北勢工場取得  
2005 年 11 月 10 日 全社拡大認証取得



※環境方針は 2007 年 4 月 1 日付で変更しています。

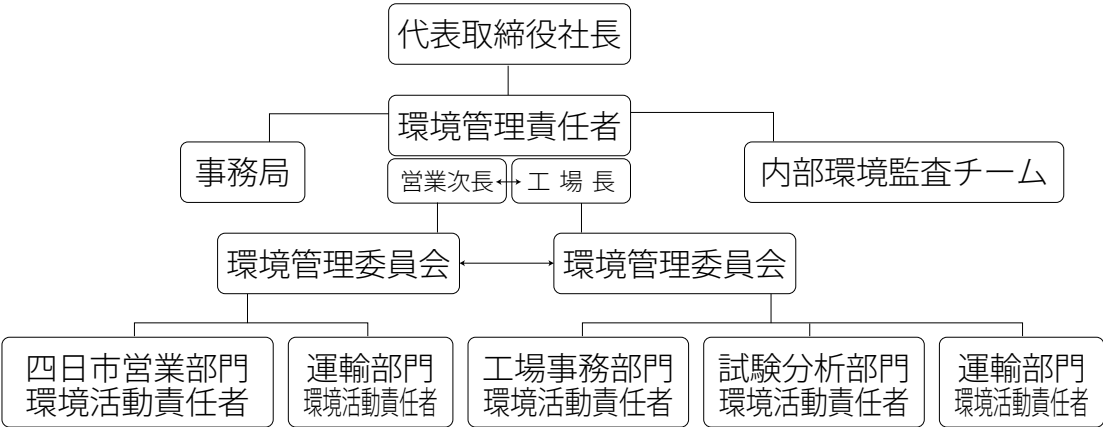
ISO14001 環境目標（平成 16～18 年度計画）の平成 18 年度実績

| 部門        | 目標項目            | 環境目的（計画最終年度・18 年度目標）     | 平成 18 年度実績      | 評価 |
|-----------|-----------------|--------------------------|-----------------|----|
| 北勢工場      | 電気機器の省エネ(事務)    | 16年度電気使用量実績の20%削減        | 10.9%削減         | △  |
|           | 用紙の使用量削減(事務)    | 15年度実績の40%削減             | 67.1%削減         | ○  |
|           | 分析室内の悪臭対策       | 脱臭装置完工                   | 脱臭装置完工          | ○  |
|           | 電気機器の省エネ(試験分析)  | 15年度電気使用量実績の3%削減         | 9.9%削減          | ○  |
| 工場        | 中和剤の削減          | 16年度実績の10%削減             | 16.3%削減         | ○  |
|           | 電動機の省エネ         | 15年度電気使用量実績(原単位)の20%削減   | 20.9%削減         | ○  |
|           | 振動篩及び脱臭設備の悪臭対策  | 脱臭設備の改造                  | 脱臭設備の改造         | ○  |
|           | 第二工場タンク抜出時の悪臭対策 | 脱臭設備完工                   | 脱臭設備完工          | ○  |
| 営業部門・運輸部門 | タンク清掃時の悪臭対策     | 脱臭設備完工                   | 脱臭設備完工          | ○  |
|           | スラッジ発生量削減       | 発生量の15%を再資源化             | 35.1%削減         | ○  |
|           | 電気機器の省エネ(営業)    | 17年度電気使用量実績の2%削減         | 3.6%削減          | ○  |
|           | 用紙の使用量削減(営業)    | 17年度実績の2%削減              | 18.6%削減         | ○  |
| 営業部門・運輸部門 | 車両走行燃費の向上       | 17年度実績の1%削減              | 5.2%削減          | ○  |
|           | 電気機器の省エネ(運輸)    | 16年度電気使用量実績の0.3%削減       | 0.32%削減         | ○  |
|           | トラックの暖気運転の削減    | 16年度実績(燃料・Nox・CO2)の42%削減 | 夫々62%・61%・62%削減 | ○  |

(注) ○達成 △未達成 ×未実行(今回該当なし)

環境保全推進体制（平成 18 年度）

ISO14001 に基づいて、環境マニュアルや手順書を作成し、継続的な改善に取り組んでいます。組織としては経営者（最高責任者）を代表取締役社長とする次の体制で取り組んでいます。





○組織・全社員の「安全・環境」意識を高めるための取組です

●経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロールの実施

実施日 平成18年7月3日

実施者 生川社長他安全管理室 3 名

狀 況 改善指摘事項 36 項目

うち 指摘事項是正確認 34 項目

指摘事項未是正 2 項目

(一定の準備期間が必要・計画的に実施中)



※安全管理体制（18年度）

社長——安全管理室長——安全管理責任者（統括本部）——安全委員（1名）  
安全管理責任者（運輸部）——安全委員（2名）  
安全管理責任者（北勢工場）——安全委員（2名）

● 社会奉仕活動への参加

地域社会の一員としての認識や活動は、企業活動において大切な事項の一つだと考えます。

身近なことです。18年度は2回の草刈りや清掃活動を行いました。今後、更なる地域貢献事業への参加をしたいと考えています。

なお、このレポート裏面に工場所在地の「いなべ市の案内」を掲載させていただきましたのも、様々な地域から工場見学に来ていただく皆様等にご紹介することで、少しでも地域に貢献したいとの思いからです。

平成 18 年 5 月 30 日 草刈り・清掃作業（他企業と合同実施）

平成18年11月27日 草刈り・清掃作業

いずれも、統括本部（四日市市）、

北勢工場（いなべ市）の両市で実施



● 営業担当が率先実行する環境への取組

## ☆クールビズでの営業活動

産業廃棄物の再資源化に取り組む企業として、クールビズでの営業活動を実行しました。

☆営業担当への環境問題等の定例研修(毎月一回)

(研修課題例)

- ・最近あった廃棄物処理法に関する具体的事例についての検討
- ・環境情報インターネット検索トレーニング
- ・PCB 廃棄物等に係る現行制度の概要
- ・循環型社会白書（環境省）について
- ・産業廃棄物処理に伴う排水処理についての考察・・・等



## ●「グリーン購入」への取組

- ・平成 18 年 5 月 1 日から①OA 用紙・印刷用紙②文具・事務用品③照明ランプ④車両を対象に取組みを開始。
- ・平成 18 年 7 月 28 日 みえグリーン購入倶楽部・グリーン購入ネットワークに入会
- ・平成 18 年 11 月 10 日～11 日 リーディング産業展みえ会場（四日市ドーム）で開催された「みえ・グリーン購入倶楽部スタンプ&クイズラリー」に参加、また、エコバックを景品の一部として提供

● 社員からの安全改善提案・標語募集

安全標語応募 (33 名 67 件 優秀作品下記 ●6 点)

- 少しの油断が命取り 危険はどこかに隠れている (坂井康彦)
- いつもの現場でいつもの作業 慣れた行動危険がひそむ (加藤正和)
- 危険予知 安全作業の第一歩 省かず目指すゼロ災害 (伊藤祐介)
- チョット待て「あせるな」「急ぐな」今一度、まわりを確認危険予知！！ (小野重行)
- 右に安全左に健康 両輪揃えて無事故運転 (高田尚美)
- 気のゆるみ 危険がいつも狙っている 声かけあって守ろう「安全」 (興梠恵里)

安全改善提案 (21 名 27 件)

### ●初期消火訓練及び緊急連絡訓練の実施



(平成19年3月8日初期消火訓練の状況)

● 安全に関する研修会の開催

日 時 平成18年5月20日

講 師 安全衛生指導員  
阪井 健二 氏

内 容 安全の意義について  
・その他

参加人員 46 名



● その他

- ・ISO14001 に関する教育・訓練
- ・ヒヤリハット事例検討会
- ・職場安全衛生会議
- ・各作業における危険予知訓練
- ・運転マニュアル説明(改正説明)会



## 環境コミュニケーションを大切に考えます

環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を継続的に改善する企業でありたいと考え行動し、このための取組を一步一步着実に築きあげます。

このため、一層の環境コミュニケーションの充実を図り、皆様からのご意見やご指導をいただく機会を増やす努力を重ねます。

### ● ISO14001 認証取得

- 2004 年 11 月 1 日 北勢工場取得
- 2005 年 11 月 10 日 全社拡大認証取得 15 項目の環境改善目標を設定して取組

はじめは、事業活動における環境負荷のほとんどを占める北勢工場において認証取得しました。しかし、当社の環境方針をお客様や地域の皆様にご理解いただくためには、営業活動にあたる社員はもとより、全社員がこれを理解し実行することが大切であるとの考えに至り、全社に拡大認証取得しました。

### ● ホームページ開設

事業活動のほか、環境への取組について幅広く公表

URL : <http://www.snk-techno.co.jp/>

### ● 環境報告書（「安全・環境経営レポート」第三版の作成・公表）

平成 17 年 9 月に第一回環境報告書（「安全・環境経営レポート」16 年度活動報告）、平成 18 年 9 月に第二版（17 年度活動報告）を作成し、公表したの続き、今回、更なる環境に関する積極的な情報の開示に留意して、第三版（18 年度活動報告）を作成し、公表しました。

なお、この報告書は、今後とも様々なご意見やご提案をいただきながら改善し、毎年発行することとしています。

### ● 工場見学（視察）の積極的受入

- ・ 平成 18 年度 96 社 176 名の皆様にご視察いただきました。



- ・ 平成 19 年 7 月北勢工場の事務所を新築し、この中に、ご視察内容を充実させるための設備を配置した室を設けました。



### ● リーディング産業展みえ 2006 に出展

平成 18 年 11 月 10 日・11 日に三重県四日市市の四日市ドームで開催されたリーディング産業展みえ 2006（エネルギー・環境ゾーン）に出展しました。

- ・ 主 催 リーディング産業展みえ実行委員会
- ・ 開催状況 出展者数 169 来場者数 6,236 人
- ・ 当社出展 廃油等のエマルジョン燃料への再生処理フロー図、廃棄物サンプル等

このほか、同時に開催された「みえ・グリーン購入倶楽部スタンプ&クイズラリー」にも参加。参加者の景品の一部としてエコバックを提供



※平成 19 年 11 月 9 日・10 日に開催されるリーディング産業展みえ 2007 及び 11 月の 2007 NEW 環境展（名古屋）に出展予定

### ● 三重県ホームページ「三重の環境と森林」生川社長インタビュー

三重の環境と森林 HP (<http://www.eco.pref.mie.jp>)「この人にインタビュー」のページに、企業活動における環境への取組について、様々な角度からのインタビューにお答えしております。平成 16 年 5 月 3 日の掲載です。

一度、ご覧いただければ幸いです。

### ● その他

- (財)産業廃棄物処理事業振興財団が実施する「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」に参加し情報公開
- 三重県環境森林部「企業環境ネットワーク・みえ」会員
- みえ・グリーン購入倶楽部会員 グリーン購入ネットワーク会員

私たちこそが、心通わせ信頼を醸成する  
最良の環境コミュニケーションツールでありたいと行動します。



統括本部



北勢工場

## ● 環境メモ

この報告書をご覧いただいてのご意見やご提案などをメモしていただき、お聞かせいただく機会があれば幸いです。

### ※ 報告に当たっての基本的要件

- **対象組織** 社員52名の小規模企業のため、全組織・全社員の連携で事業活動が行われていることから、会社全体を対象。  
また、廃棄物の再資源化が事業の中核であることから、協働・連携する企業間の関係についても記載。
- **対象期間** 2006年4月～2007年3月（直近事業年度）を基本としていますが、必要に応じ現在の状況や計画などについても記載。
  - ・第一回報告 2005年9月（2004年4月～2005年3月分）
  - ・第二回報告 2006年9月（2005年4月～2006年3月分）
  - ・今回 報告 2007年8月（2006年4月～2007年3月分）
  - ・次回の予定 2008年7月（2007年4月～2008年3月分）
- **対象分野** 報告の基軸は環境的側面であるが、事業の性格上、「安全」と「環境経営」の理念を一体として捉える必要から「安全・環境経営レポート」として作成。

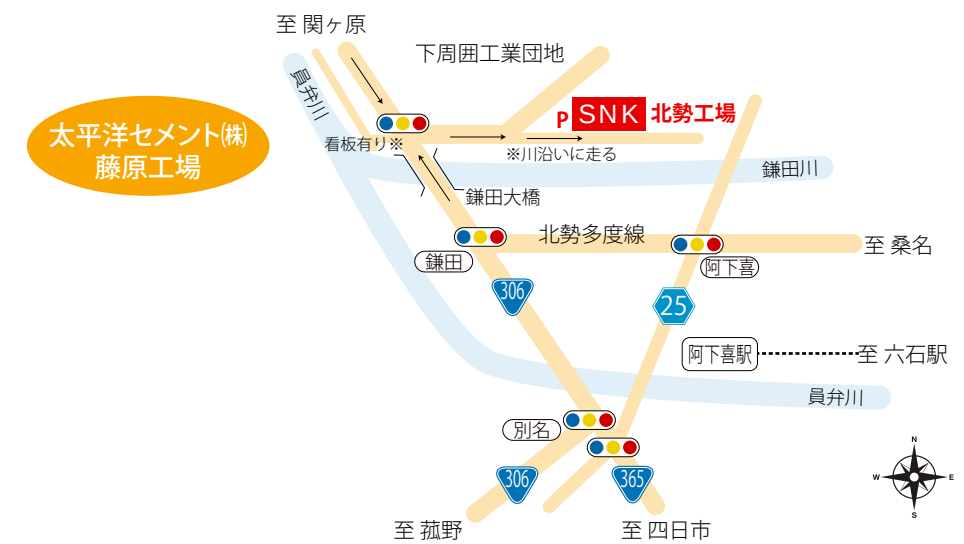
**統括本部** 三重県四日市市清水町4番45号  
☎510-0814 Tel 059-332-3711 Fax 059-332-2132

URL: <http://www.snk-techno.co.jp>  
E-mail: eigyoubu@snk-techno.co.jp



東名阪「四日市IC」より 車で約15分 距離8km

**北勢工場** 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地  
☎511-0417 Tel 0594-72-7850 Fax 0594-72-7851



東名阪「桑名IC」より 車で約30分 距離18km  
東名阪「四日市IC」より 車で約35分 距離22km  
名神「関ヶ原IC」より 車で約35分 距離28km